

# V9Plus ブラウザクライアントでの JavaVM の扱いについて

マジックソフトウェア・ジャパン株式会社  
カスタマーサービス本部 開発部  
2005年8月25日

---

本文書は、Magic eBusiness Platform V9Plus 製品において、ブラウザクライアント機能を使う場合に必要とされる Microsoft Java VM (MSJVM) が 2007 年末にサポート停止になる件について、Magic の対応について説明するものです。

**参考:** 本文書は、Magic のブラウザクライアント機能を用いて Web アプリケーションを開発・運用する場合にのみ関係します。Web を使わないクライアントサーバ形式(オンライン)の Magic アプリケーションや、Web 対応でもブラウザクライアント機能を用いない HTML マージ方式のアプリケーションでは関係しません。

## ブラウザクライアントと Java VM

ブラウザクライアントというのは、Magic eBusiness Platform V9 において導入された技術で、Web ベースの環境でありながらオンラインプログラムのような高度にインタラクティブなユーザインターフェースを実現することができるものです。

システムは Magic サーバとクライアント PC からなり、ユーザはクライアント PC から Internet Explorer (IE) を使って TCP/IP (HTTP プロトコル)で Web サーバを経由し Magic サーバにアクセスします。

HTML や JavaScript のみではブラウザクライアントのような高度なインタラクションを実現できないため、専用の Java アプレットがサーバからダウンロードされ、IE 上で実行され、Magic サーバと通信を行いながら処理を進めるようになっていきます。この専用アプレットは、Magic 製品に同梱され、インストール時に Web サーバの仮想ディレクトリ上に配置されます。

このようなしくみとなっているため、ブラウザクライアント技術を使ったシステムでは、クライアント PC 上に Java アプレットを実行させるための Java VM が必要になりますが、Java VM としては、Microsoft 社から提供される JavaVM (MSJVM) のみをサポートしており、Sun Microsystem 社など他社の Java VM はサポートしていません。

**参考:** Java VM は、クライアント PC にのみ必要となります。Magic サーバを実行しているマシンでは、Java 環境は必要ありません。

## .Net Framework によるアプレット

Magic V9Plus Ver 9.40J SP1 までは、アプレットとして MSJVM で動作する Java アプレットのみを提供していましたが、Magic V9Plus Ver 9.40J SP3 から Java アプレットと同等の機能を有する .Net Framework によるアプレットも提供するよういたしました。これによりユーザは、Magic サーバ側の動作環境の設定により、Java アプレットを利用するか、.Net アプレットを利用するかを選択できるようになりました。

.Net Framework に対応したアプレットを利用することにより、Microsoft Java VM がインストールされていないクライアント PC でもブラウザクライアントを利用することができるようになりました。

## Microsoft からの JavaVM のサポート停止と Magic の対応

Microsoft 社と Sun Microsystem 社の間都合に基づき、Microsoft Windows XP SP1a 以降の Windows 製品 (Windows 2003 サーバを含む)には MSJVM が添付されなくなりました。現在では Microsoft 社のサイトから MSJVM をダウンロードすることもできなくなっています。また、MSJVM は 2007 年 12 月 31 日にライフサイクルが終了になります。この件についての Microsoft 社からの情報については、Microsoft 社のホームページの [Microsoft Java Virtual Machine \(MSJVM\) サポート](#) を参照してください。

ブラウザクライアントを使うユーザのクライアント PC に MSJVM がプリインストールされていない場合には、次のような方法で対応することができます。

1. **.Net Framework のアプレットを利用する (推奨)**: Ver 9.40J SP3 以降の Magic 製品を利用している場合には .Net Framework に対応したアプレットも提供されているので、Java アプレットに代わり、.Net アプレットを利用することにより、MSJVM がインストールされていないクライアント PC でもブラウザクライアントを利用できます。この場合、クライアント PC に MSJVM は不要ですが、.Net Framework 1.1 がインストールされている必要があります。  
**参考**: .Net Framework 1.1 のインストールは、Windows Update によって行うか、あるいは、[Microsoft 社の Web サイト](#) よりダウンロードすることができます。
2. **MSJVM をクライアント PC にインストールする**: MSJVM のインストールプログラムが Magic の製品 CD-ROM で提供されていますので、ユーザはこれをクライアント PC にインストールすることにより、MSJVM がプリインストールされていない PC でもブラウザクライアントを使えるようになります。  
**参考**: MSJVM のインストール方法については、商品添付の Readme に記述されているので、そちらを参照してください。また、MSJVM のインストールの後には必ず Windows Update を行い、最新の MSJVM に更新してください。

将来 MSJVM がサポート停止されることを考慮すると、Magic としては、1 の .Net Framework によるアプレットを利用することを推奨いたします。

## 今後の Magic の対応について

Magic では、今後 .Net ベースのアプレットを主力として行く予定です。

- 既存システムの互換性のために Java ベースのアプレットも提供していきますが、新機能は .Net ベースのアプレットでのみ提供する予定です。
- Sun Microsystem 社製の Java VM など他の Java VM に、ブラウザクライアントのアプレットを対応させていく予定はありません。
- また、Magic の将来のバージョン (仮称 V10) では、.Net ベースのアプレットのみ提供し、Java ベースのアプレットは提供しない方針です。